



天文資料

2024年 4月号

令和6年度 第1号 (4月号)

令和6年3月25日

発行：佐世保市少年科学館

佐世保市少年科学館



＜春の夜空で輝く星座＞

太陽が沈んで暗くなった頃の空を

見上げると、西の空を中心に冬の星

座の星々がまだ残っています。その

冬の星座たちよりも少し低い所にとて

も明るく輝いている天体が木星です。

空の高い所には、春を代表する星座

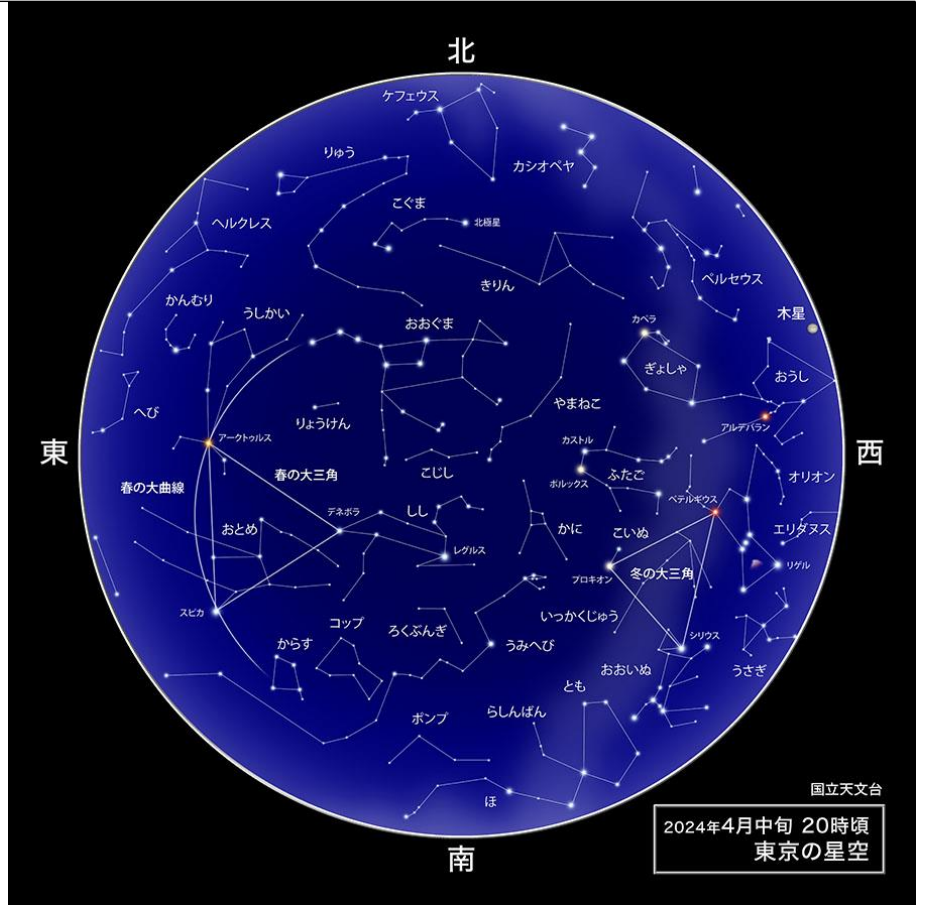
のしし座、その北側には北斗七星を

含む星座のおおぐま座が見えていま

す。数ある動物の星座の中でも、特に

大きな動物である獅子と大熊が、春の

夜空で静々と前進(西へ日周運動)しています。



- 2日 下弦/水星が留
- 4日 清明(太陽黄経15度)
- 9日 新月/皆既日食 (日本では見られない)
- 16日 土用の入り(太陽黄経27度)/上弦
- 19日 穀雨(太陽黄経30度)
- 22日 16時頃、4月こと座流星群が極大
- 24日 満月/水星が留
- 29日 昭和の日

肉眼で見える二重星ミザールとアルコルを見よう

北斗七星の柄の部分、端から2番目の星ミザールのすぐそばに、アルコルという暗い星があります。目の良い人なら肉眼で見つけられるため、昔は視力検査に使われたという話は有名です。ミザールとアルコルのように二つの星がとても近くに見えるものを二重星といいます。19世紀末、分光観測によりミザールとアルコルは2個だけではなく4連星系と連星、という星の組み合わせであることが分かりました。